

いなむら市長の

「ひと咲き まち咲き あまがさき」

4月24日(火) 放送分

放送時間 8:00～、12:45～、16:00～

再放送 4/26(木) 8:00～、12:45～、16:00～

4/28(土)、4/29(日) 17:00～

テーマ 「**地元**に**完全密着**！**身近な歴史**をもっと**知ろう**！」  
(**県立尼崎稲園高等学校放送部**)

<市長> 皆さん、こんにちは。尼崎市長の稲村です。今回も、元気いっぱい、市内の高校生の皆さんによる番組をお楽しみいただきましょう。それではさっそくスタートです。どうぞ！

<阪本> いなむら市長の「ひと咲き まち咲き あまがさき」をお聴きの皆さん、こんにちは！兵庫県立尼崎稲園高等学校放送部です。今回この番組を担当する2年の“さかもっちゃん”こと阪本麻衣と、

<杉山> 同じく2年の“にっちゃん”こと杉山二千華です。

<阪本> ちょうど去年の今頃には、この春卒業したまいな先輩や、あと今3年生になられたわか先輩たちがこの番組に出演させていただいたとのことで、約1年ぶりの稲園高校です。どうぞ、

<2人> よろしくお願いします。

<阪本> さて、にっちゃん、今回私たちが取り上げたテーマはというと...

<杉山> はい、「**地元**に**完全密着**！**身近な歴史**をもっと**知ろう**！」と題して、本校の「**地理歴史研究会**」、通称「**地歴研**」の活動をご紹介しますと思います。

<阪本> はい、地歴研というのはですね、地理や歴史好きの稲園生男女11人が集まって、わいわいがやがや楽しく歴史を語ったり、あと近くの遺跡を訪ねたりして、最終的にはガイドブックのようなものに仕上げようとしてるらしいですね。

<杉山> そうですね。でも、さかもっちゃん、「**地理歴史研究会**」って、ちょっと名前が堅め

ですよね。これってブカツか何か？なんか、去年の夏休み前くらいに発足したんだよね。  
<阪本> はい、そうなんです。そのあたりのことを、本校の本池教頭先生にお聞きしました。

<放送部員> 教頭先生、そもそも「地歴研究会」って何なんですか？

<教頭先生> 平成 30 年が兵庫県政 150 周年にあたるのを記念して、高校生が兵庫県の歴史について調査研究し、歴史を振り返るとともに、未来を考えるきっかけにしようという、兵庫県の企画があって、それに本校もぜひ参加しようということで、地歴公民科で 1 年次主任の内藤先生に話をもちかけたのが始まりです。

<放送部員> 今から 150 年前というと...1868 年。教頭先生、この年は確か、江戸幕府が終わりを告げ、明治新政府が誕生した年、ですよね。

<教頭先生> そうですね、そして兵庫県が誕生した年でもあるわけです。

<放送部員> はい...、えっ?! でも先生、廃藩置県は 1868 年じゃなくて、1871 年じゃないんですか？イチ・ハチ・ナナ・イチ、「藩とはいわない、県という。」ですよね。

<教頭先生> そのとおり。実は兵庫県は廃藩置県よりも 3 年早く誕生しているんです。さあ、どういことでしょうか。そのあたりの謎もぜひ調べてみましょう。

<放送部員> えっ？は、はい...

<杉山> えーなんでー、すごい気になるー。「地歴研」の人たちは知ってるのかな？

<阪本> ねえ、ちょっと聞いてみたいですね。ちなみに本池教頭先生は日本史の先生です。で、次は「地歴研」を指導されている内藤先生にもお話を伺っているので、聞いてみましょう。内藤先生、地理歴史研究会はどういう思いで立ち上げられましたか？

<内藤先生> まああの、自分自身が地歴科公民科のまあ専門なものですから、そういう分野で生徒と共に研究活動をして、えーまあ兵庫県の何らかの場で研究発表をしていきたいなということを考えて、最初始めることになりまして、郷土史と言いますか、まあ学校の周辺の、まあ猪名寺、稲野というふうな町なんですけれども、まあその地元の歴史風土、そういったことを調べながら、研究していこうということで、立ち上げたというところです。

<阪本> というわけで、今年が兵庫県の 150 歳のお誕生日だっていうことに関連して、地元の地理とか歴史を調べようっていう活動のようですね。

<杉山> そうですね。

<杉山> はい、さて、今日はそんな「地歴研」のメンバーの 1 人に、このスタジオに来てもらっています。ご紹介しましょう。2 年の神田真璃菜さんです。いえーい。

<神田> あ、どうも、神田です。真璃菜です。よろしくお願ひします。

<2 人> よろしくお願ひします。

<阪本> 早速ですが、まりなちゃん、「地理歴史研究会」は具体的にどんな活動をされているんですか？

<神田> はい、えっと、11 人のメンバーが 4 つの班に分かれてそれぞれ活動しています。私

は大塚山古墳や黄金塚古墳みたいな古墳や、猪名寺廃寺跡、猪名野神社元宮などを調べています。あと、学校の近くにある佐璞丘（さぼくがおか）と、あと万葉集との関連、教科書でよく聞く万葉集との関連も調べています。

<阪本> へー。あの、猪名寺廃寺っていうと、稲園高校から歩いて15分くらいの、生徒会が清掃活動をしている、佐璞丘にあるんですね。

<神田> そうです。万葉の森とも言われているところですね。

<杉山> あそこって民家を抜けていったら、いきなりうっそうとした暗い森になってて、初めて行ったときすごいびっくりした。ここって尼崎？みたいな。

<阪本> アマにあんなところがあるなんて。

<神田> あのちょっと前まではゴミの不法投棄とかでかなり荒れてた所だったんだけど、今はずいぶんきれいになってて、あと昔は「猪名の笹原」と呼ばれてて、和歌にも詠まれていた景勝地だったそうなんだよね。

<杉山> あー知ってるー、なんやったっけ。あ！、「ありま山 猪名の笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする」だよね。

<神田> そうそう、百人一首大会で、みんなねらっている歌だよね。

<2人> そうだねー。

<阪本> あ、まりなちゃん、猪名寺廃寺、猪名寺廃寺跡っていうことは、かつてあそこに猪名寺っていうお寺があったってことですよ。

<神田> そうです、今は「塔心礎(とうしんそ)」っていうって、塔の柱の基礎石が残ってるだけで、伽藍、つまりはお寺の建物自体は、おそらく荒木村重と織田信長の合戦で消失したと思われてるんですよ。

<杉山> へえー、なんかすごい、みんな知ってる有名な名前が出てきた。

<神田> あと他にも、同じ敷地内に、法園寺（ほうおんじ）っていうお寺があったり、今は伊丹にある猪名野神社、あそこももともこの地域にあたりして、公園の一角にひっそりとたたずんでるんだけど、長い歴史を背負った遺跡が、私たちの近くにあるんですよ。

<阪本> へえー、そうなんだ。そういうことを調べてるんだね。

<神田> そうです。

<杉山> はい、じゃあ、「地歴研」の他のメンバーにもいろいろ質問してきたので、ちょっと聞いてみましょう。まず、地歴研に入ったのはどうしてですか？

<野辺> 単純に歴史が好きっていうのもあるし、高校にまず入った時、部活以外にも何か頑張りたいなって思って、入りました。

<伊藤> 僕は、あの、小学校のころから歴史とかが結構好きで、地元の歴史をもっと知りたいなと思って入りました。

<竹内> 私、歴史とかが好きだったんで、こういう会に入ったら歴史の事もっと深く学べるかなと思って入りました。

<杉山> まあ、というように、もちろん皆さん歴史が好きだから、だそうです。では、やっていて楽しいこと、よかったことを聞かせて下さい。

<伊藤> 地元の、なんか色々な歴史とか、僕らの身近なところにも、なんかすごい遺跡とか歴史のある物とかが結構あるっていう事に気づいて驚きました。

<中村> 地域の自治会長の人が、こう街を散策しながら各ポイントとかで案内して下さったり、細かく説明して下さったりする、そういうガイドの時間とかがあったりして、やっぱりこう自分の肌でその場所に行って感じれたりするっていうのがすごい楽しいところですね。

<杉山> へえー、地元の人との交流もあるんですね。あ、そういえば、内藤先生もこんなふうにおっしゃっていました。

<内藤先生> 地域の園田学園女子大学の先生であるとか、地域の自治会のあの役員の方々であるとか、そういうその地域の方との、あのつながりと言いますか、連携と言いますか、そういうものが持てたということが良かったかなということと、まああの普段なかなか見られないような、こう、こつこつ研究していくような、あの生徒たちの、まあ姿勢に触れるようなことなどを垣間見の中で、まあまだ今活動の途中経過なんですけど、ああやってよかったなことはよく思います。

<阪本> 課外活動ならではの良さって感じだね。

<杉山> そうだね。でもきっとたいへんなこともあると思うので、聞いてみました。たいへんなこと、苦労していることは何ですか？

<駒澤> 地域の人話を聞いてレポートを提出するっていうのがあったんですけど、その時にどうやったらわかりやすくなるかなって思ってまとめるのが大変でした。

<竹内> 苦労したことは特にはなかったですかね。全部楽しくてそんな苦労したとかそういうことはなかったです。

<杉山> さすが、やっぱり好きなことをやってるときは苦労を感じないんですね。さて、では再びまりなちゃん、古墳についても調べてるってことだけど、さっき言った、大塚山古墳とか黄金塚古墳ってどこにあるの？

<神田> 実はどちらも稲園高校から徒歩圏内にあるんです。

<阪本> えっ？そんな近くに？

<神田> そうなんです。黄金塚古墳はとってもミステリアスな古墳で、古歌、古い歌に「たづね見よ 三つ葉ウコギのその下に 黄金の瓦千枚ぞある」って詠まれてて、もしかしたらこの古墳の中には黄金が眠ってるかもしれないんですよ。

<杉山> えっー、じゃあそれが古墳の名前の由来ですか？

<神田> 多分そうかもしれないんですけど、でも、これまで幾度となく黄金を掘り返そうとしたらしいんですけど、そのたびにその人たちに不幸が訪れて、いまだ黄金は確認されていないそうです。

<阪本> 恐ーい。

<杉山> でも、おもしろそうだね。そういうことも調べられるんだね。

<阪本> まりなちゃん、掘り出す予定は？

<神田> 予定ですか？予定は、うー、興味はね、すごいあるんだけど、やっぱりまだ16年しか生きてないから、ちょっとまだ命が惜しいですね。死に際に掘りたいと思います。

<神田> でも、調べてると本当に面白くて、もっと、もっと知りたいってことがいっぱい出てくるんだけど、でもそろそろやっぱりまとめに入っていくかないといけないので、ちょっとあせってもいます。

<阪本> 忙しいね。がんばってください。

<神田> ありがとうございます。

<杉山> あ、そういえば、まりなちゃんは、さっき教頭先生がおっしゃってた、兵庫県が廃藩置県より早く県になった理由って知ってる？

<神田> ギク。実は聞いていたんですが、ちょっと聞かれるかと思って覚悟はしていたんですが、知らないです。

<杉山> あー、残念だね。じゃあ、みんなの宿題ってことにしましょうか。

<阪本> そうましょう。はい、ということで、そろそろお別れの時間となったようです。

<杉山> はい、今回は「地元完全密着！身近な歴史をもっと知ろう！」と題して、「地理歴史研究会」の神田真璃菜さんにお越しいただき、お話をお聞きしました。まりなちゃんありがとうございました。

<神田> こちらこそ、ありがとうございました。

<阪本> そして皆様のお相手は、尼崎稲園高等学校放送部 阪本麻衣と、

<杉山> 杉山二千華でした。

<2人> お聴きいただきありがとうございました。さようならー。

<市長> いかがでしたか？ それでは、次回の放送もお楽しみに！

以 上